



さわだ りこちゃん
(6さい)

ほいくえんで ひょういん
ごっこを しているよ。お
おきく なったら やさし
い かんこしさんになって
ひょうきや けがをしたひ
とを みてあげるの。



おひさま保育園のおともだち



つちや よしきくん
(5さい)

なわとびや とびほこが
だいすき。おおなわを 1
がいしが まわせないから
もつと まわせるように
なりたいな。なわとびが
うまくなりたんだ。

がんばっているあなたがすき

シリーズ・ひと

写真は一期一会

秋山庄太郎記念「花」写真コンテスト2010で特選に輝いた

水谷 礼子さん(65歳・泉5)



壁に飾ってある写真のうち、左端が特選に選ばれた作品「ピュアに」。
入賞作はじめ水谷さんの作品(17点)は、人形の家(朝日1)の常設展でご覧いただけます。

「写真で人を癒やし、元気にする。」をテーマに開催された秋山庄太郎記念花写真コンテスト2010(NPO法人フォトカルチャークラブ主催)。全国各地から2千600点もの応募があった中、見事2位にあたる特選に選ばれたのが水谷さんです。

「公民館の写真講座を受講したのが2001年の春。その年の秋には一眼レフカメラを購入しました。以来、ファインダーを通して見る世界に魅せられて、道東の豊かな自然を私なりの視線と感性で写し続けてきました。コンテストにも挑戦し、これまでも賞をいただいたことはありますが、この度の花写真コンテストのほか第58回写真道展にも入選しました。大変驚きましたが、写真を始めて10年目の節目の年に大きな賞をいただき、思いがけずご褒美をいただいた感じがします。

今回の作品はどのようなように撮ったものですか。

「自宅の庭のチューリップを、ソフトレンズを使って撮影したものです。ソフトレンズならではのにじんだ感じが好きです。写真の先生からは「玄関を一步出たら被写体と出会える」と教わってきました。この写真はまさにそういった作品ですね。

普段から花の写真が多いのではありませんか。

「お花が好きで、被写体の8割がお花ですね。また、撮った写真を見ていただくことが好きで、友人や親戚に差し上げたり、個展を開催したりしています。お花の写真は皆さんに喜ばれますし「優しい気持ちになった」「癒やされた」と言っていたので、写真に對する思いをお聞かせください。

「写真とは一瞬の切り取りで、特に自然を相手とした撮影は、まさに一期一会だと思います。また、写すことが楽しいのはもちろんですが、見ていただくのもうれしいですし、大切でもありと思っています。撮った写真は思いがこもっていますから、どれもわが子のようにかわいいのですが、誰かに見ていただくと、自分が抱えているのはまた違った感想を得られることがあります。今回の作品も以前、郵便局で開催した個展で皆さんにほめていただいたのがきっかけで、コンテストに応募しました。

水谷さんの今後について。

「写真を通して素晴らしい師と出会い、写友もたくさんでき、励みになっています。これからも一生の趣味として、無理なく楽しみながら続けていきたいらと思えます。

今回は、ペン字サークルの皆さんをご紹介します。
結成は1995年11月。きっかけは、公民館で行われた町民講座でした。講座終了後もペン字を学び続けたいという有志の皆さんが集まって、結成しました。



ペン字サークルの皆さん
後列左側が代表の大橋さん



ペン字サークル

代表・大橋 征子さん
会員・5人



活動の様子

毎月第1・第3火曜日の13時から、公民館で活動しています。会員も随時募集中のことです。興味のある方は大橋さん ☎4803-2760 までお問い合わせください。

講師は当初、町民講座の講師でもあった和泉朋子さんが務めていましたが、札幌へ転居。その後も、しばらくは通信講座という形で和泉先生の指導を受けていましたが、現在は代表の大橋さんが中心となっています。

「一口にペン字と言っても、筆ペンやボールペン、鉛筆、サインペン、マジックなど、さまざま。ペンを使用します。皆さんが「難しい」と話すが、ひらがなとカタカナ。ひらがなとカタカナは、源字(元となった漢字)と、字の成り立ちを覚えた上で書かなければならないので、とても難しいそうです。

皆さん、字が上手になりたいという一心で続けてきたとのこと。また、メールなどの普及により手書きが珍しくなる中、手書きの文字は喜ばれることが多く、それがうれしくて励みになるそうです。



ペン字のはがき